
地獄の2週間

星雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄の2週間

【コード】

N0792G

【作者名】

星雲

【あらすじ】

部活の合宿で2週間、離ればなれになる2人…それぞれの視点から描く恋愛ストーリー

合宿前日（前書き）

B L、山獄です。

合宿前日

ぎゅっぎゅっ

「おい、いい加減はなせ野球馬鹿！」

俺は今獄寺の家で獄寺に抱き着いてる…

肘で頭をガンガン殴られてるけど今日だけは意地でもはなれねえ…

その訳は…

「なあ、獄寺は寂しくねえの？俺が2週間も合宿に行っちまうのにいっっ」

これだ。

毎年恒例の部活の行事…まあ俺は2週間も獄寺に触れないなんて堪えられる訳ねえから参加する気なかったんだけど…

この合宿の参加希望紙を提出したのは3ヶ月前のこと…

俺と獄寺が付き合い始めたのは2ヶ月前…

そりゃあ3ヶ月前も俺は獄寺を好きだったけど、その時は獄寺にこんな触れ方できるとは思ってなかったし、

恋が実るとも思ってたから、その思いも早く忘れたいと思ってた時期だった訳で…余計参加したいと思っただんだけな…

はあ………すげえ誤算…。

「2週間ぐらい何だっただよ！一生会えなくなるみたいな態度とりやがって!」

「俺にとっちゃ地獄の2週間なのなあ」

合宿は明日から…

明日から獄寺と2週間…14日も会えなくなっちゃう…。

それから俺らは熱い夜を過ごした……けど悲しい……

翌日、只今午前5時

当然獄寺は寝てる…昨日はやり過ぎたかもな…

手加減しなかつたし…

顔の泣き跡を見て苦笑…少し罪悪感が生まれる…

俺は自分の感情を人に押し付けすぎる癖があるからなあ…自分で自覚するほどに…

んで風呂入って、着替えて、朝飯食って、行く準備万端

はあ……………

思わずため息が出ちまう…

そりゃそうだよな…ほんと泣きたい気分だ…

そして獄寺の額にキスをおとした

合宿前日（後書き）

読んでくださった方ありがとうございます。〇）

ホントは裏を書きたかった…なんて…（殴

いつまでも自重しない自分…。

楽しく書いていきたいです^^

合宿当日（前書き）

山獄です。

合宿当日

「……………ん……………」

「 ……っ！わりい起きるとは思わなかった…」

「別に…いい…うつすら起きてた…から…」

目細めてこっち見てる獄寺は、マジ可愛い…でもすげえ眠たそお…

「もお…行くのか……………」

「ああ俺頑張ってくるからな…応援してな…」

「はっ……………誰が……………」

恋人と2週間も会えなくなっちまうのに相変わらずツンツンしてんのな…

よく思う…獄寺ってホントに俺のこと好きなのかって…

「ちゃんと飯食うんだぞ？寝る時はベットでな？どっかの不良に喧嘩吹っ掛けられてもかうなよ？」

「てめえは母親か…馬鹿…」

「あと……………浮気は…するなよ……………」

「…………俺が好きになったのはてめえだけだ…分かってんだろ？」

っ！あああ！！！！真面目に行きたくねえ！！

今、絶対俺の顔真つ赤だ！

「おおっ！大好き獄寺っ！愛してるっ！」

ぎゅっぎゅっぎゅっ

「おいっくら！こんなことしてていいのかよ！遅刻するぞ！」

「あつホントだ！やべえ！」

「じゃあな獄寺また電話すんな！」

「すんなよ…疲れてるだろ…そんなとき…」

「俺にとっては獄寺が、疲労解消に1番有効なのなっ！」

「馬鹿……」

あつ顔赤くしてる……可愛い！

「行ってくる」

「おお……」

それで俺は獄寺の家をあとにいた。

……

「遅刻だ！ち・こ・くー！」

「すみません……」

「向こうについたら山本1人で500メートルのインターバル10回！あと連帯責任でインディアンジョック5キロ！」

「「ええ〜！」」

「〜っ皆〜めんな〜」

「ほらっ出発だ！バス乗れ！」

皆それぞれの荷物と部活の道具などを持ってバスに乗り込んだ

バスの中でも獄寺のことが頭からはなれない…はなれるわがない…

友人の話しすら入ってこない

ああ俺はいざとなった時は友人より恋人をとる人間なんだなあ…

合宿当日（後書き）

遅刻の罰で出したメニュー…

陸上のメニューですね…

得にインターバルなんか代表的なもんじゃないですか…

インディアンジョグはまあいいかなあ…と、まあ野球部がやってくるものはそれか分かりませんが…同じようなもんなんです…

自分、陸上部だったんでね…。

合宿1日目(前書き)

山嶽です。

合宿1日目

もうへとへと…疲れまくり…

現地に着いたあと、旅館に荷物置いたらすぐにメニューやらされた…。

それから練習やったり…

もお夕方だ…

こここのグラウンドは草だらけ…
いつもは小学生のクラブチームが使ってるらしい…

でもここは山奥…クラブチームもメンバーが足りなくてほとんど活動は停止してる…らしい…

ああ〜獄寺何してるかなあ〜

練習が終わったあと旅館に行って風呂入って飯食って…

もお寝るといじ…

狭い旅館で3部屋くらいに分けて皆で布団敷いて寝る状態…

窮屈ではないが良いものでもない…

こんな時は獄寺の温もりが欲しい…

「獄寺、寒い…夏だからってソファで毛布1枚はないのな」

「うるせえ馬鹿なんだから風邪はひかねえだろ…」

「馬鹿でも風邪はひくのな…」

「……そっち行っていい…?」

「……好きにしろ……」

っ可愛い!

「獄寺大好き！！！」

カバッツ

「うわっ！そんな引っ付くな！馬鹿っっ！！！」

……………寂しい……………。

電話していいかな……………

でも、まあ1時……………

……………メール……………なら……………

「起きてる？」

送信……………。

それから3分後

「起きてる」

っ返ってきた!!!!

「電話していい？」

「駄目」

「何で？」

それから30分くらい返ってこない……………。

何でだ…？

まさか、他の男…と…………

許せないのな!

兎に角電話する!

出ない

ピッ

「……！！……獄寺……？」

「ああ、山本、武……」

「……！！？雲雀っ！！」

「あの子はもぉ寝てるよ……」

「おいっ！なんで獄寺と雲雀が一緒にいんだよ……！」

「くすっ……さあね……」

ピッ……

信じらんねえ……

恋人が合宿行って1日目で浮気するとか……

昨日の朝の言葉は嘘……？

『……俺が好きになったのはてめえだけだ……分かってんだろ……？』

……獄寺……。

ツナの家にて

side 獄寺

山本が合宿に行った…

べ、別に寂しいとか…そんなんじゃないかねえけど…なんもやる気しねえ

）

この音楽は十代目っ！

ベットからすぐ起き携帯を手にとる

「今日暇？」

っ十代目からの誘いっ！！

「はい！」

「じゃあ10時に俺んち来てくんない？」

「はい！もちろん行きます！」

今は8時…すぐに風呂入って着替えて、飯食って…ぴったしに着くようにする！

んで俺は十代目のお宅に伺った…。

「いらっしゃい、急にごめんね…」

「いえっ！暇でしたから」

ぼそっ

「山本がいないからね…」

「……………？十代目……………なんかいいました…？」

「…ううん！なんでもないよ」

今十代目の顔が少し強張った感じがした…

きのせい…だよな…。

十代目の部屋には雲雀と了平と骸がいた。

.....？

「十代目.....？なんでこいつらが.....」

「いや、なんか、リボンが仲間の親睦を深めるとかで.....」

「.....え？でも山本が.....」

「あとランボもないんだけどね.....？」

ああ気がつかなかった。

「...で、なにをするんですか？」

「群れたくないから...早く済ませてね.....」

「俺も極限忙しいのだ！トレーニングがまだ山ほど残っているのだからな！...！」

「少しポリウム下げろ芝生頭.....」

昨日のせいで腰がまだ痛む...それに疲れて怒る気力もない

「獄寺くん疲れてるの…?」

「　　っ!い、いえっ!」

「ちゃおっす…皆集まってるな…」

!!

「リボン!皆集めて何すんだよ」

「だから親睦会だ…まずはゲームで親睦を深めるか…」

「ゲーム?殺しあいとかかい?」

雲雀…戦うことしか能がねえ肉食動物か…

「ほかのことも考えてるよ…獄寺隼人…」

っ!?

読心術かよ!?

「ホント君はよく顔に出す…」

「……………そおかよ……………」

「殺し合いじゃねーぞ…そおだな…ここはボスに決めてもらうか…」

「はあっ！？なんで俺がつっ！ゲームっていったって…」

ああ十代目が困っていらっしやる…でもリボンさんが十代目を選んだんだ…俺には何も出来ない。

「大丈夫だよ…獄寺くん…」

っ！！！！

「じゃあベタだけど王様ゲームはどうか…」

王様ゲーム…？

王様ゲーム(前書き)

Re!の獄受けます。

王様ゲーム

ああ獄寺くん王様ゲーム知らないんだ…

「王様ゲームってのはね…くじを引いて、それぞれ番号が書いてあるんだけど、王様を引いた人だけ、その番号の人に命令できるんだよ…もちろん王様は誰が何番を引いたのかは分からないんだけどね」

説明力は全然ないけど…

「なるほど！分かりました！」

理解力がある獄寺くんは分かったみたい……

割り箸でテキトーにくじを作ってはじめてた…

「クフフどうやら僕が王様らしいですね…」

ああ骸いたんだった…

俺は3番…

「……では、3……いや、1番の人にキスしてもらいましょうか……」

うわー危なー……

……ん？獄寺くんの顔が青ざめてく……

ああ獄寺くんか……はあ……

「なんで俺がてめえなんかにっ！」

「おや？隼人くんでしたか……クフフ……ルールは絶対ですよ？」

「……………くっ」

……え？まじでキスしちゃっの……？

獄寺くんは山本が好きなんだと思ってたけど……まさか骸を……

ありえないか……

ちゅっ

！？

うわあ…しちゃったよ!!!

顔真つ赤だし…骸なんかめっちゃ笑顔だし…面白くない……

ああ雲雀さんもそおみたい…

お兄さんなんて顔背けてる…。

兎に角2回目…骸にはもう王様を引かせらんない…

次のくじを引く…

これだっ!!!

「あの…俺が王様です…」

ギロツ

やべえ…皆(獄寺君以外)オレ睨んでるよ…

「ん〜じゃあ1…ん〜やっぱ3…?」

あ、獄寺君の顔が引き攣った…

「じゃあ3番の人、今日1日俺のことツナって呼んで?」

「…嫌だよ………」

っ！！！！！？

ひひひひひひ雲雀さんん！

俺も嫌だよ！！！！！！

なんなんだ…頑張つて？王様引いたつてのに何で罰ゲームみたいに
なつてんの？

ああ神様…俺は欲望が強すぎたのでしょいか…獄寺くんに一度でい
いから

「ツナ」って呼んで欲しいという願望は禁忌だったのですか？もし
かして神様も獄寺くんのごことが…

「あの…十代

「ぐはっっっ！！！！」

獄寺くんが俺が上の空だから心配して話かけてくれたつてのにリポ
ーンってやつは！

「ツナ今獄寺で変なこと考えてたろ」

「かつ考えてないよ！！」

いや、まあ変つてゆーか…いかがわしくはないし…

「なんでもいいけど、命令…変えてくれない？」

「ひっ！わかりました！」

雲雀さんがトンファーを構えてる

「じゃ、じゃあ3回回ってわんつとか、うっうっうっうっ嘘です！どわあ！トンファー投げないで下さい！あ、学ラン！学ランがなんで戦っても落ちないのか教えて下さい！」

「安全ピンだろ？」

「獄寺隼人、そんなわけないでしょ？気合いだよ、気合い」

答えになってねえええ！

こんな感じのくだらない遊びが2時間ほど続いた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0792g/>

地獄の2週間

2010年10月8日13時06分発行